

学校の概要		学校名	安曇野市	立豊科南中	学校	学校長	原田邦彦	児童生徒数	317名			
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について												
学校運営に必要な支援に係る協議の場					ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について							
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある							
		市町村教委		自治会代表	○	○ ボランティアの団体がある(組織化されている)						
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		公民館代表	○	PTA代表	○	○ ボランティアと学校の情報交換会がある						
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員	○	学校長・教頭以外の学校職員	○	○ ボランティアの方を対象とした研修会がある						
名称	豊科南中学校学校運営協議会			[その他の委員]※具体的な役職名を記入 社会福祉協議会豊科支所長 放課後学習室指導員		学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいるか(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター	人			
							地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)	2	人			
会議開催数(予定)	3	回	今年度開催日(予定)	6月12日 11月6日 2月5日		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		地域住民				
						具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)						
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況												
学校教育目標	教わるものから学ぶものへ ひとつを続けてほんものへ 心をひらいて深い交わりへ											
地域と共有された育てたい子どもの姿	自立し、地域とともにある生徒											
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)					地域と協働した活動状況							
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について			○	1	学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○				
2	学校運営への必要な支援について			○								
3	地域の実情や課題について			○	2	地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		○				
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて			○	3	ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)						
5	教職員の任用に関する一般的な要望について				4	協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数	20人			
							参加者延べ人数	212人				
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り		読み聞かせ		児童会、生徒会	○	クラブ、部活動	○	給食		休み時間	
	清掃		ICT		学習ボランティア		総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃		放課後教科・体験学習	○
	土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動	○	子ども食堂(こどもカフェ)との連携		防災学習(避難訓練)	○	遠足・登山		キャリア教育(職場体験を含む)	○
	人権教育		国際理解		託児							
学校・家庭・地域の協働した取組例												
		地域合同あいさつ活動(日6/7・10/3・10/11)		朗人大学オープンキャンパス(8/28・10/23・11/22)		2学年職場体験学習(10/18・10/19)						
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)												
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)												
社会福祉協議会と協働して地域の方を対象とした「朗人大学オープンスクール」を3回開催した。朗人大学講座として「安曇野の偉人から歴史を学ぶ」「マリーゴールドを使った染め物体験」「ポッチャ体験」「拾ヶ堰について」等の講座を開講した。どの講座にも、地域学習を通して興味関心がある学級から参加希望があり、合同で受講することで、朗人大学参加者と中学生の交流の場となった。講座とは別に授業参観や給食試食会も設けた。すると、朗人大学参加者から、中学生が一生懸命に学んでいる姿から刺激を受けたとの感想を多くいただいた。また、生徒側から朗人大学参加者に直接インタビューを申し出る姿が出てきたりするなど、それぞれの学びが自然に広がる結果となり、お互いの学びが重なり合い、学びが豊かになったことを感じる事ができた。												
育てたい子どもの姿を具現化するための学校・家庭・地域の連携・協働を推進する上での課題 (運営上の課題を記入 例 人材確保について、打ち合わせや会議について等)												
今年度、家庭・地域とつながり、「育てたい子どもの姿」の具現化に向けた対話の場を設けることができた。更に、学校・家庭・地域それぞれができる具体的な取り組みについて検討していく必要がある。今後も、対話の場を設け、各地域の参考となる取り組みや新たな試み等、好事例について情報共有をはかり、各家庭・地域での具体的な取り組みにつなげていきたい。												

学校の概要		学校名	安曇野市立 豊科北中 学校		学校長	臼井 宏之		児童生徒数	363 名			
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について												
学校運営に必要な支援に係る協議の場						ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について						
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		会議の委員構成				ボランティアのリストがある						
		市町村教委		自治会代表		ボランティアの団体がある(組織化されている)						
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		公民館代表		PTA代表		ボランティアと学校の情報交換会がある						
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		学校長・教頭以外の学校職員		ボランティアの方を対象とした研修会がある						
名称	[その他の委員]※具体的な役職名を記入				学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいるか(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター		3 人			
	豊科北中学校学校運営協議会 豊科郷土博物館学芸員 社会福祉協議会豊科支所職員						地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)					
会議開催数(予定)	3	回	今年度開催日(予定)	5月29日 10月27日 2月27日		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		地域住民				
						具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)						
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況												
学校教育目標	教わるものから自ら学ぶものへ 一つを続けてほんものへ 心をひらいて深い交わりへ											
地域と共有された育てたい子どもの姿	自他を尊重し、主体的に学び合うたくましい子ども					<ul style="list-style-type: none"> 仲間と学び合い、互いを高め合う子ども 相手を思いやり、自分も他人も大切にできる子ども 自ら考え主体的に行動できる子ども 						
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)					地域と協働した活動状況							
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について				○	1	学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。				○	
2	学校運営への必要な支援について				○							
3	地域の実情や課題について				○	2	地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。				○	
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて				○	3	ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)				○	
5	教職員の任用に関する一般的な要望について					4	協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数	56 人		
								参加者延べ人数	約1200 人			
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	○	読み聞かせ	○	児童会、生徒会	クラブ、部活動	○	給食	休み時間			
	清掃		ICT		学習ボランティア	総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃	放課後教科・体験学習			
	土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動	○	子ども食堂(こどもカフェ)との連携	防災学習(避難訓練)		遠足・登山	キャリア教育(職場体験を含む)			
	人権教育		国際理解		託児							
代表的な協働した活動の取組例												
(上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)												
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)												
○ 全学年で総合的な学習の時間に「ふるさと豊科」について学ぶ活動を行っている。1学年は福祉・自然・歴史・産業の視点から学級単位の活動として、2学年はテーマを定め、安曇野祭り・重柳地区の魅力・安心安全な暮らしについて、多面的に探り学級の中でもグループ単位での活動も取り入れながら活動した。3学年は昨年度までの積み上げをもとに、ふるさとの魅力発信、自然体験、美化活動、暮らしやすい安曇野市の施策について学級単位で活動を深めながら行っている。市役所、郷土博物館、民間企業、社会福祉協議会、地域協力者等々様々な立場から地域学習に関わっていただいている。その誰もが、豊科の良さを知り体得することで、さらにふるさと豊科を愛する子どもたちになって欲しいと願っている。子どもたちにも、郷土愛が深まっていることが感じられる。												
○ 今年で3年目の北中一斉草刈りデーの取り組みです。今年度も幅広く学区全体から住民の方の参加がありました。来年度は更に協力者が増えそうな勢いです。												
育てたい子どもの姿を具現化するための学校・家庭・地域の連携・協働を推進する上での課題												
(運営上の課題を記入 例 人材確保について、打ち合わせや会議について等)												
○ 学校職員とボランティアの方との打ち合わせの時間の確保が難しく、一方的なお願いになってしまう傾向がある。												

学校の概要		学校名	安曇野市 立 穂高東中 学校	学校長	赤羽 文恵	児童生徒数	443 名			
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について										
学校運営に必要な支援に係る協議の場				ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について						
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		会議の委員構成		○ ボランティアのリストがある						
		市町村教委	○	自治会代表	○ ボランティアの団体がある(組織化されている)					
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		公民館代表	○	PTA代表	○ ボランティアと学校の情報交換会がある					
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員	○	学校長・教頭以外の学校職員	○ ボランティアの方を対象とした研修会がある					
名称	徳高東中学校学校運営協議会			[その他の委員]※具体的な役職名を記入		学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいるか(それぞれの人数を記入)				
					地域コーディネーター	人				
				地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)		2	人			
会議開催数(予定)	2	回	今年度開催日(予定)	5月29日	2月28日	中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)				
						地域住民				
						具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)				
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況										
学校教育目標	自ら学ぶ 共に学ぶ 人から学ぶ									
地域と共有された育てたい子どもの姿	(1) 自他の良さを認め、人を思いやり、互いに学び合える生徒 (2) 自分で筋道を立てて考え、考えたことを行動に移せる生徒 (3) 地域に学ぶ活動を通して、穂高の良さを理解し、誇りに思える生徒									
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)				地域と協働した活動状況						
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について	○	1	学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。	○					
2	学校運営への必要な支援について	○	2	地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。	○					
3	地域の実情や課題について	○	3	ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)	○					
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて	○	4	協働活動に参加したボランティアの人数	ボランティア登録者人数	30	人			
5	教職員の任用に関する一般的な要望について	○	5		参加者延べ人数	300	人			
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	○	読み聞かせ	児童会、生徒会	○	クラブ、部活動	○	給食	休み時間	
	清掃		ICT	学習ボランティア	○	総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃	放課後教科・体験学習	
	土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動	○	子ども食堂(こどもカフェ)との連携	○	防災学習(避難訓練)	○	遠足・登山	キャリア教育(職場体験を含む)
	人権教育		国際理解		託児					
学校・家庭・地域の協働した取組例										
		地域の素敵な大人と出会う会(8月22日)		地域と連携した防災学習(9月11日)		手作り弁当日に合わせた地域食材提供(10月10日)				
代表的な協働した活動の取組例										
(上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)										
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)										
<p>本年度から、安曇野市役所農政課で進めている「地産地消の促進」「次世代の地域農業の振興」事業を受けて、17校に地域食材が提供された。本校は、学区内に多くの栽培田があり、総合的な学習の時間や職場体験学習などで関わりが深いことから、わさびをいただくことにした。農政課で信州山葵農業協同組合に提供を依頼し、学区内にあるわさび店の関係者(東中生の先輩)が来校し、3学年生徒分のわさびの根(芋)と葉茎が贈呈された。生徒は、いただいたわさびを、翌週実施の「手作りお弁当の日」のメニューの中に一品に加えたり、家庭の食卓で家族と味わったりした。</p> <p>「153人分のわさびのお礼をしたい」そう考えた3学年は、一人ひとりがメッセージカードを作成。クラスごとにパネルに貼り、わさび提供者に感謝パネルの贈呈した。後輩が提供者である本校の先輩に感謝を伝え、先輩は、仕事のやりがいを語った。一本のわさびが、「先輩」と「後輩」の出会いの場を生んだ。</p> <p>学校と地域との協働的な学びは、活動をきっかけにして人と人が結びつき、新たな関係性が生まれるところに良さがある。</p>										
育てたい子どもの姿を具現化するための学校・家庭・地域の連携・協働を推進する上での課題										
(運営上の課題を記入 例 人材確保について、打ち合わせや会議について等)										
(1) 技能教科や行事、登下校の見守りなどの人材発掘、確保後の継続的な支援依頼が学校独自のルートで行わざるを得ない。学校関係者の個人的なつながりで依頼することも多く、持続可能な方法とは言い難い。										
(2) 予算について、その運用に柔軟性があると、資金を必要な活動に使うことができる。										

学校の概要		学校名	安曇野市 立 穂高西中 学校	学校長	濱野 久	児童生徒数	378 名		
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について									
学校運営に必要な支援に係る協議の場				ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について					
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある				
		市町村教委	自治会代表	ボランティアの団体がある(組織化されている)					
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○ 公民館代表	○ PTA代表	○ ボランティアと学校の情報交換会がある					
		○ 地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員	○ 学校長・教頭以外の学校職員	○ ボランティアの方を対象とした研修会がある					
名称	徳高西中学校学校運営協議会			[その他の委員]※具体的な役職名を記入		学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいないか(それぞれの人数を記入)	地域コーディネーター 1 人		
						地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)	3 人		
会議開催数(予定)	2	回	今年度開催日(予定)	5月23日(火)、2月(日時未定)	中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)	地域住民			
					具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)				
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況									
学校教育目標	誠なる人:心を磨く(徳) 明らかなる人:知恵を磨く(知) 健やかなる人:心身を磨く(体)								
地域と共有された育てたい子どもの姿	○自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決できる子ども ○地域の方との関わりや体験から学んだことをもとに、情報を整理・分析して、友と共有し、まとめ・表現することができる子ども ○友や地域の方との関わりの中で、自己の良さに気づき、その良さに自信をもち、自分の将来に生かしていこうとできる子ども								
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)				地域と協働した活動状況					
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について	○	1	学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。	○				
2	学校運営への必要な支援について	○							
3	地域の実情や課題について	○	2	地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。	○				
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて	○	3	ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)					
5	教職員の任用に関する一般的な要望について		4	協働活動に参加したボランティアの人数	ボランティア登録者人数	35	人		
					参加者延べ人数	320	人		
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り		読み聞かせ	児童会、生徒会	クラブ、部活動	○	給食	休み時間	
	清掃		ICT	学習ボランティア	○	総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃	放課後教科・体験学習
	○ 土日・長期休業教科・体験学習		○ 地域の伝統文化の継承に係る活動	子ども食堂(こどもカフェ)との連携	○	防災学習(避難訓練)	○	遠足・登山	○
	人権教育		国際理解	託児				キャリア教育(職場体験を含む)	
学校・家庭・地域の協働した取組例									
	ボランティアによる花壇の整備(通年)		ありあけタイムの筆ペン講座(1・2学期)		地域と連携した防災学習(2学期)				
代表的な協働した活動の取組例									
(上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)									
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)									
・地域の講師の方々から学ぶ「ありあけタイム」の活動を、3学年の生徒を対象に、1学期から2学期にかけて、1回85分の活動で10回行うことができた。 ・今年度の「ありあけタイム」は、写真・茶道・ダンス・ムーブメントセラピー・筆ペン・刺繍・平和学習の全6講座に3学年生徒たちが分かれ、地域の講師の方々からご指導をいただいた。 ・「ありあけタイム」の活動で、各講座の講師の方から専門的な知識や技能・技術をご指導いただき、地域の方々とのコミュニケーションがより一層深まる機会となった。活動の成果について、本校の文化祭「ありあけ祭」で講座ごとに発表し、全校の生徒や保護者にも内容を理解してもらった。 ・「ありあけタイム」終了後は、ご指導いただいた地域の講師の方々から生徒自ら、お礼状を書き、感謝の気持ちをお伝えすることができた。									
育てたい子どもの姿を具現化するための学校・家庭・地域の連携・協働を推進する上での課題									
(運営上の課題を記入 例 人材確保について、打ち合わせや会議について等)									
・コロナ禍を経て、これまでの活動をふまえて、新たな地域連携の形として、地域の方々との協働する機会をどのように設け、どのように行っていくのかを今後も継続して考えていかなければならない。 ・ボランティアの人材確保について、地域コーディネーターの方と協力しながら、人材バンクの作成や地域への呼びかけを行っていきたい。									

学校の概要		学校名	安曇野市 立 三郷中 学校	学校長	杵掛 隆	児童生徒数	492 名					
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について												
学校運営に必要な支援に係る協議の場				ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について								
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある							
		市町村教委	○	自治会代表	ボランティアの団体がある(組織化されている)							
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		公民館代表	○	PTA代表	○	ボランティアと学校の情報交換会がある						
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員	○	学校長・教頭以外の学校職員	ボランティアの方を対象とした研修会がある							
名称	三郷中学校学校運営協議会			[その他の委員]※具体的な役職名を記入		学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいるか(それぞれの人数を記入)	地域コーディネーター	人				
				社会福祉協議会代表			地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)	3	人			
会議開催数(予定)	3	回	今年度開催日(予定)	5月30日(火)	10月23日(月)	2月26日(月)	中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)	地域住民				
具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)												
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況												
学校教育目標	豊かな心を持ち 辛抱強く自分を鍛え 自ら学ぶ生徒になろう											
地域と共有された育てたい子どもの姿	ちがいを尊重し、自己肯定感をもとに伸びる子どももの姿											
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)				地域と協働した活動状況								
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について	○	1	学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。	○							
2	学校運営への必要な支援について	○	2	地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。	○							
3	地域の実情や課題について	○	3	ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)	○							
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて	○	4	協働活動に参加したボランティアの人数	ボランティア登録者人数	26	人					
5	教職員の任用に関する一般的な要望について	○	5	参加者延べ人数	参加者延べ人数	26	人					
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り		読み聞かせ		児童会、生徒会	○	クラブ、部活動	○	給食		休み時間	
	清掃		ICT		学習ボランティア		総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃		放課後教科・体験学習	○
	土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動	○	子ども食堂(こどもカフェ)との連携		防災学習(避難訓練)		遠足・登山		キャリア教育(職場体験を含む)	
	人権教育		国際理解		託児							
学校・家庭・地域の協働した取組例												
	第1回地域学習会(5月12日)			第2回地域学習会(6月27日)			第3回地域学習会(11月20日)					
	代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)											
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)												
○地区生徒会、PTA地区担当と連携して、各地区の地理や歴史に精通した地域講師15名の方をお招きし、第1回は三郷中学校の各教室で地区毎に分かれて自分の住み地区の地理や歴史についての講義を行った。第2回は各地区に分かれて現地でフィールドワークを行い地域講師より寺社や史跡等についての解説をいただいた。生徒が普段何気なく見ている景色や、寺社や遺跡等の学習をしたり、フィールドワークを行ったことなどで、「心のふるさと」安曇野の良さを再確認することができた。また、普段関わりが少なくなってきた地域の方と地域学習の中で交流することができた。また、地区の伝統の継承にも繋がった。三郷中学校の大切な活動として今後も継続していきたい。												
育てたい子どもの姿を具現化するための学校・家庭・地域の連携・協働を推進する上での課題 (運営上の課題を記入 例 人材確保について、打ち合わせや会議について等)												
○学校運営協議会の課題として、地域学習会では、地区の講師の確保がなかなか難しい面がある。高齢の講師の方の引き継ぎなどの面について、世話人の方やコーディネーターにお願いしてはいるものの、難航しているのが現状です。												

学校の概要		学校名	安曇野市	立 堀金中	学校	学校長	堀金 猛	児童生徒数	253 名			
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について												
学校運営に必要な支援に係る協議の場					ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について							
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある							
		市町村教委		自治会代表	○ ボランティアの団体がある(組織化されている)							
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		公民館代表	○	PTA代表	○ ボランティアと学校の情報交換会がある							
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員	○	学校長・教頭以外の学校職員	○ ボランティアの方を対象とした研修会がある							
名称	堀金中学校学校運営協議会			[その他の委員]※具体的な役職名を記入			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいるか(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター	人		
				社会福祉協議会 民生児童委員					地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)	3	人	
会議開催数(予定)	6	回	今年度開催日(予定)	①4/28 ②5/24 ③6/12 ④10/17 ⑤12/12 ⑥2/17			中心的なコーディネーター(どちらかに○)		地域コーディネーター	地域学校協働活動推進員		
運営委員会や学校運営協議会を学校評議員会と兼ねている							○		具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)		民生児童委員	
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況												
学校教育目標	みんなで心通い合う学び舎づくり -自立と共生-											
地域と共有された育てたい子どもの姿	・自立…一人になれる「自分で生きていける」 ・共生…一つになれる「集団で努力する」											
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)					地域と協働した活動状況							
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について			○	1	学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。			○			
2	学校運営への必要な支援について			○	2	地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。			○			
3	地域の実情や課題について			○	3	ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)						
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて			○	4	協働活動に参加したボランティアの人数			ボランティア登録者人数 参加者延べ人数	15 300	人 人	
5	教職員の任用に関する一般的な要望について											
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り		読み聞かせ		児童会、生徒会	○	クラブ、部活動	○	給食		休み時間	
	清掃	○	ICT		学習ボランティア		総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃		放課後教科・体験学習	○
	土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動		子ども食堂(子どもカフェ)との連携		避難訓練	○	防災学習	○	キャリア教育(職場体験を含む)	○
	学校・家庭・地域の協働した取組例											
		あいさつ運動(5/16)			キャリアフェスティバル(5/24)			職場体験(7/11)				
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)												
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)												
<p>・学校運営協議会の委員と教育委員会と生徒会が中心となって、着ぐるみを使ったあいさつ運動が実現した。市役所からご当地キャラ「みずん」を、社会福祉協議会からゆるキャラ「あずみん」や「かえる」を、さらにディズニーの「ウッディー」「バズ」を持ち寄り、昇降口でたくさんの挨拶と笑顔を生み出すことができた。</p> <p>・「子ども・教師・地域が自ら拓く」ことを大切に、キャリアフェスティバル等を通して地域連携の深まりと生徒の育ちを願っている。これまでは、職場体験など担当職員が計画立案したり、生徒が目指すことや自己課題を明確に持たなかったりして、主体的・探究的ににくい傾向だった。そこで、キャリアフェス実行委員を生徒と地域選出の方で編成し、企画運営から協働で進めることにした。ある地域の人は「職業と職場の違いって何だろう」と生徒に投げかけ、生徒は「自分は何かしたいんだろう」と、自分に問い返す姿があった。5月のキャリアフェスでは35の事業所が来校した。それまでに生まれた疑問「どんな仕事があるのだろうか。」「働く意味とは何か。」「仕事を通して働きたいは何か。」等について事業所の方々と懇談を行った。さらに7月にはそれぞれの事業所を訪れ、職場体験学習を実施した。懇談で考えたことを、味わい確認し実感する取り組みとなった。</p>												
育てたい子どもの姿を具現化するための学校・家庭・地域の連携・協働を推進する上での課題 (運営上の課題を記入 例 人材確保について、打ち合わせや会議について等)												
<p>・協働活動を設定するとき、平日の日中の活動となると、高齢の方が多く、今後定年延長でさらに高齢化が進むと考えられる。協働を基にした人材確保がむずかしい。また、少子化によって学級数減となるので、コーディネーターやボランティア専用の部屋を確保していけるとよい。</p> <p>・休日の協力・出演について、お祭りのお手伝いや吹奏楽部による演奏などの依頼がある。これ自体には大きな価値があり、部活は多様なニーズに応えられる良さがあるが、移動・運送などの面で難がある。部活動が地域や保護者と部活がどう連携していくかが課題である。</p>												

学校の概要		学校名	安曇野市 立明科中学校	学校	学校長	阿部 悦夫	児童生徒数	181 名	
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について									
学校運営に必要な支援に係る協議の場					ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について				
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある				
		市町村教委		自治会代表	ボランティアの団体がある(組織化されている)				
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		公民館代表	○	PTA代表	○	ボランティアと学校の情報交換会がある			
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員	○	学校長・教頭以外の学校職員	ボランティアの方を対象とした研修会がある				
名称	明科中学校学校運営協議会		[その他の委員]※具体的な役職名を記入 安曇野市社会福祉協議会代表			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいます(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター	人
					地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)		2	人	
会議開催数(予定)	3	回	今年度開催日(予定)	6月2日、9月15日、2月26日		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		地域住民	
					具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)				
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況									
学校教育目標	『 感動する心 つなげる心 やり抜く心 』								
地域と共有された育てたい子どもの姿	○安曇野市教育理念 からだを動かし、頭で考え、心に感ずる 『未来を拓くたくましい安曇野の子ども』 ○明科三校小中一貫教育 目指す子どもの姿 『明るくゆたかにいきる 子ども』								
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)					地域と協働した活動状況				
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について			○	1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		
2	学校運営への必要な支援について			○	2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		
3	地域の実情や課題について				3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用できる部屋との兼用でも可)		
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて			○	4		協働活動に参加したボランティアの人数		
5	教職員の任用に関する一般的な要望について				5		ボランティア登録者人数	学校としては登録制度を設けていない	
						参加者延べ人数	約30 人		
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	読み聞かせ	児童会、生徒会	クラブ、部活動	○	給食	休み時間		
	清掃	ICT	学習ボランティア	総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃	放課後教科・体験学習		
	土日・長期休業教科・体験学習	地域の伝統文化の継承に係る活動	子ども食堂(こどもカフェ)との連携	防災学習(避難訓練)		遠足・登山	キャリア教育(職場体験を含む)		
	人権教育	国際理解	託児						
学校・家庭・地域の協働した取組例									
		あやめの保護活動(7/13)		白鳥保護の活動調査(12/14)		空き家利用を考えよう(8/31)			
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)									
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)									
3年生の総合的な学習の中で、あやめの保存、空き家の対策、防災、居場所づくり、廃線敷き利用の5つのグループに分かれ、地域に詳しい皆さんのご協力を得て調査活動を行った。文化祭では、各グループでポスターセッションを行い、安曇野市教育会主催の「安曇野の子どもを語る会」、市の中学生議会の場において、発表や提言する場をさせていただいた。地域で活動して下さる皆さんの思いや地域の課題を知るとともに、自分に何ができるのか考え、表現する場を得たことは、生徒一人ひとりの自信につながった。									
1年生は、明科の宝を探究しようということで、校外への調査に出かけた。その中で、地域の皆さんにも協力いただき、調査を進めることができた。1月11日には朗人大学に参加して下さる皆さんといっしょにまとめを行い、参観日に発表を行う。来年度は明科の職場調べを行い、自分で体験をする職場を発掘するという活動を行うので、その活動にこの体験やつながりが役立つことを願う。									
育てたい子どもの姿を具現化するための学校・家庭・地域の連携・協働を推進する上での課題 (運営上の課題を記入 例 人材確保について、打ち合わせや会議について等)									
生徒の願いと、支援して下さる方の思いをぴったりフィットさせることは難しい。地域の皆さんは、生徒のために一生懸命準備をしてくださっていることは大変ありがたいが、とすると、生徒の主体的活動でなくなってしまうことがある。その加減をどう打ち合わせの中ですりあわせていこうかが課題となる。									